

- 1, 視察した学校：立命館小学校
- 2, 公開テーマ：楽しく分かる、力がつく社会科授業の探求
- 3, 参観した授業

(1) 単元名「地震から暮らしを守る」4 学年

目標 地震発生時における自助、共助、公助の三助の働きについて考え、自分や自分の身の回りの地震に対する備えについて関心を高めることができる。

(2) 単元名「自然災害を防ぐ」5 学年

目標 自然災害の対策(ハザードマップ)について知り、災害の際にどのような姿勢で行動すべきか考えることができる。

4, 視察の目的

今まで授業を行う上で、子どもたちが自ら調べたい、学習したいという意欲がわくような授業をつくるのがなかなかできず、課題に感じていた。言葉や事柄を教え込むような教師主導の授業になってしまったり、調べ学習をしたことをまとめていく段階でうまくねらいに沿ってまとめることができなかつたりなど、社会の授業への難しさを感じていた。また、同僚間でも身近に題材がないような単元などは特に、どのように授業をしていったらよいか相談をすることがあった。今年度は三度目の5年生の社会科を教えるチャンスなので、もっと子どもたちが楽しんで自ら学びたいと思う授業にできるよう、他県の取り組みからも学んでいきたいと思った。

5, 二つの授業を参観して学んだこと

4 年生の授業のようす

4 年生は、「2011年に湯たんぽが

たくさん売れたのはなぜだろう？」という課題を考えることを通して、

「自助・共助・公助」の三助のはたらきについて知る授業であった。

まず表題のないグラフが提示され、そのグラフが何を表しているもの

なのかを子どもたちが考えるところから始まった。授業の中で、先生

が子どもたちの意見を丁寧に受け止め、ねらいに向かってグラフを読

み取らせるまでの流れが一番印象に残っている。グラフは一つしか提示され

ていないが、そこから何を読みとらせたいかということに視点を定めて、そ

れを読み取るための情報を全体で共有していくことの大切さを感じた。湯た

んぽの売り上げは東日本大震災の後に大きく上がったのだが、子どもたちは

かなり小さな頃に起きたことなので、震災についての知識の量がばらばらで

あった。そこで先生が地図帳で場所を調べるように伝え、場所を調べている

間に大震災の動画を準備し、子どもたちに見せた。「大きな震災があった。」

と子どもたちに伝えることは簡単だが、それを子どもたちの知識から引き出

し、グラフの読み取り方などの基本的なことや震災が起きた場所、どのよう

なことが起こったのかなど段階を踏んで情報を共有していった。グラフから教師が本時の授業でねら

っていることを読み取るための情報共有の場面が本当に流れるようで、自分も見ていて引き込まれて

しまった。

普段の自分の授業では資料集を使って多くの資料やグラフを読み取っているが、その資料を読み

取らせることへのねらいが甘く、また読み取るための必要な情報共有が曖昧だったのでないかと思

う。その後の話し合いは子どもたちがとても一生懸命に意見を出し合っていた。本時の中ではど

んなことを学ばせていくかという教師のねらいの大切さを、グラフの読み取りから学ぶことができ

た。

5 学年では、自分の住んでいる地域のハザードマップを調べ、災害が起きたときにはどのような

姿勢で行動すべきかということ考えた。授業の中で Surface を一人一人が取り出して調べる場面

があり、住んでいる地域が全然違っていても自分の地区を見ることができるともよいと感じ

た。普段自分たちの学校では調べる時にはパソコン教室に行かないといけないので、教室での授

業で必要な時に調べられることはとても便利であり、うまく活用できれば授業がよりよくなってい

くということを感じた。



Surface を使って